

シンガポール駐在

## シンガポールの自由貿易協定( F T A )戦略

貿易立国を標榜するシンガポールは今、世界を相手に積極的に自由貿易協定( F T A )を展開している。

F T Aとは、二国間または地域間の協定により、加盟国同士の関税や非関税障壁を撤廃して、貿易の自由化を進めるものである。最近ではモノの貿易のみならず、サービス貿易、投資、競争など幅広い分野を含むようになってきている。F T A締結により加盟国間の貿易・投資が一層活発化すると同時に産業合理化が進むなどのメリットが期待されており、1990年代以降世界で急増している。

シンガポールの場合、まず足元では同国が加盟するASEAN(東南アジア諸国連合)によるAFTA(ASEAN自由貿易地域)が2003年に発足する予定である。シンガポールはこれまでもAFTA実現に向け積極的に動いてきた。また、そのASEANは2010年までに中国とF T Aを締結することで合意している。これについてもシンガポールはタイと共にASEANのなかでは積極肯定派であると伝えられている。

## ASEANの枠組みを越えて

さらに、この2～3年はASEANの枠組みを越えたF T Aを積極的に展開している。

02年11月30日には日本とのF T Aが発効した。日本にとっては初めてのF T Aである。同じく11月9日には、米国とF T A締結で原則合意に達した。米国にとってはアジアの国との初のF T Aとなる。こちらは03年中に調印、04年に発効予定である。

この他、既にニュージーランドとは締結済み、EFTA(欧州自由貿易連合。アイスランド、リヒテンシュタイン、ノルウェー、スイスの4カ国で構成される)とも調印済みで03年1月

に発効予定、豪州とは交渉妥結済み、さらにカナダ、メキシコ(共同声明調印済み)、チリ(ニュージーランドも含めた3国間で)、インド(共同声明調印済み)韓国、台湾、EUとも交渉が開始、ないしは検討が始まっている。

## 個別F T A展開は危機感がきっかけ

シンガポールがASEANの枠組みから突出した動きを取っていることに対し一部の他の加盟国から批判的な意見も出ている。それにも関わらずシンガポールが熱心に個別のF T A締結に動いているのは、シンガポールなりの危機感の現れであろう。多国間主義に基づく世界的な自由貿易体制を推進するWTO(世界貿易機関)の場合、新ラウンド交渉は開始が合意されているものの難航が予想され、先行き不透明感が拭えずにいる。AFTAの場合、保護主義的勢力の台頭と手続き上の問題などで、実効性に手詰まり感が出ているという事実がある。

貿易総額がGDPの2.8倍に達する貿易立国であるシンガポールは、貿易自由化の進展が自国の繁栄に直結すると認識している。従って、世界的にF T Aが大きな潮流となっている状況下、このまま手をこまぬいてASEANの枠内にとどまっていたのでは自由貿易のメリットを逸してしまうと恐れている。だからこそASEANの枠組みを超えた個別F T A締結を、しかも締結できるところからどんどん進めてゆくという動きを取っているのだろう。

シンガポールのF T A展開を見てみると、同国は世界中の国・地域・経済圏とF T Aで結ばれるかのようである。今後これが同国の貿易、投資、経済構造改革にどのような影響を与えていくことになるのか、大いに注目される。

(殖田 亮介 TEL.03-3201-0524)